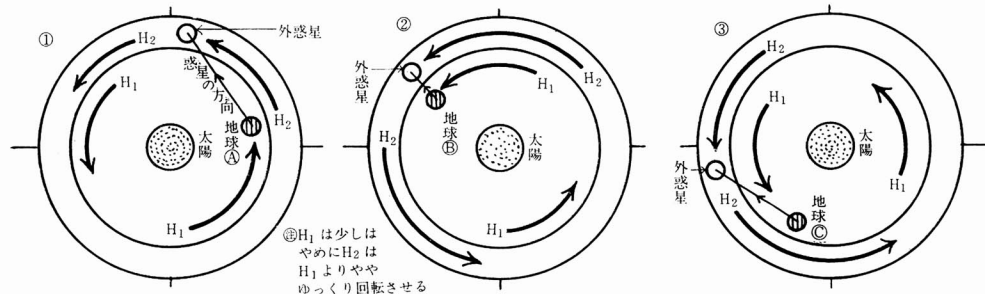
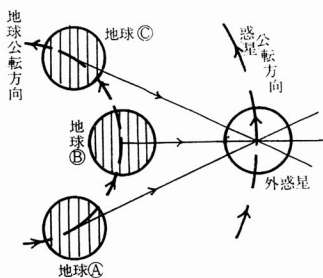


図一六 地球・太陽・星(座)の位置(運動)関係を考える方法



図一七 惑星の順行, 逆行を考える方法



図一八 地球から見た惑星の方位の変化(順行から留, そして逆行への変化)

自由回転できるようにする。この装置は、前述した装置と同様になる。(モータードライブは含まれないが)。さらにもう2本の画鋸も図のようにセットし、油粘土を丸めてのせて、あとは前述した3の(1), (2), (3)と同じように実験すればよい。

しかしながら、大きな円板を1回転したときに小円板も同様に回転するので、モーターを使用した前の装置より不便であるが、考え方によっては、かえて効果がある場合もある。それは、天体の実際の運動と一致しないということによってモデルの修正が必要になり、当然、西から南を通り東への運動(3の(1), (2)の運動)を考えざるを得ないことになるであろう。

(2) OHP をもちいて図一10のような方法でも(1)と同様効果があると思われる。

5. おわりに

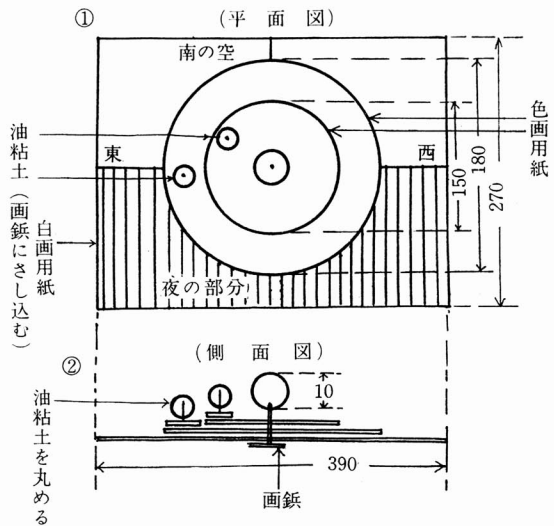
紙面の関係で言いたくない面がかなりあるようにも思われますが、不明の点はセンターに問いあわせられたい。

ぜひ、利用され、ご意見をいただきたい。

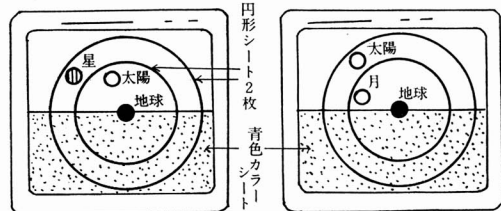
いた簡易製作物によっても、その目的を達成することが可能である。

(1) 画用紙による場合は、図一9のように、白画用紙1枚と円形に切った大小2枚の色画用紙(2枚とも別の色がよい)を

②のように、下側から画鋸をさし自由



図一九 地球・太陽・月・星(座)の相互関係を画用紙をもちいて思考させる方法



※円形の2枚のシートは自由に回転できるようにする

図一10 地球・太陽・月・星(座)の相互関係をOHPで思考させる方法